

平成 25 年度まちづくり座談会における質問と回答の要旨

■十王地区：8月20日（火）午後7時30分～9時 参加者数 60人

Q. 米沢川から取水している折居堰については、全く取水ができず、東側の沢の水を利用している状況であるが、沢であるため、間もなく水が尽きてしまう。早急に米沢川から取水できるようにしていただきたい。

A. 折居堰については、米沢川からパイプを引いて水を確保する処置を考えているが、パイプの設置予定場所に行くまでの間が崩壊しており行くことができない状態である。代替策として、小型重機を使い、別ルートでの検討を進めており、間もなく対応できるもの。

Q. 藤倉沼について、災害の土砂により貯水量が極端に減っている。十王、折居地区の要の沼であるため、土砂の除去をお願いしたい。

A. 藤倉沼については、今回の災害による対応とは捉えていないが、他の方法による対応を検討したい。沼については、町内のかなりの箇所では被害が出ており、優先順位をつけて全体的な調整をしながら対応していく必要がある。

Q. 中沢ため池の上の砂防堰堤が満杯になると、ため池の貯水量が少なくなる。砂防堰堤の砂の除去をお願いしたい。春には、田植えも始まるため、ここに限らず、被害のある箇所はできるだけ早く対応してもらいたい。

A. 当該砂防堰堤については、林務砂防か建設砂防かを確認し、県と調整しながら対応を検討していくことが必要になる。また、取水全般に関して、来春の取水に向け、できるだけ年内中には対応したいと考えている。水利組合や区の協力も必要であるため、ご協力をお願いしたい。

Q. パレス松風と関寺付近で土砂崩れが起きたが、パレス松風の建設前は雨水が平等に流れて、このような災害は起きなかったものと思われる。建設前と建設後では、雨水の流れはかなり違うのではないかと。雨水の流れをつかんでいただき、今後に向けた対応をしていただきたい。

A. ご指摘の通り、建設前と建設後の雨水の流れは違うものと認識している。今後、雨水が1ヶ所に集中せず、分散されるような処置を施したい。これから復旧工事に入るが、その前に雨水の流れを調査し、処置をしたうえで復旧工事に入りたいと考えている。

Q. 関寺付近の土砂崩れについて、個人所有の土地ではあるが、今回は個人対応ではない対応が必要なのではないか。

A. 保安林として指定し、治山的な処置をする対応が考えられる。保安林となれば規制は出てくるが、みなさんのご同意を得たうえで指定し、工事を行うこととなる。ただし、保安林となっても、県内での調整があるため、すぐに対応できるとは限らず、お時間をいただくこととなる。

Q. 今回の災害で、避難勧告等が出された。避難勧告はニュースで知り、本当かどうか確認するために町のホームページを見たが、その情報は掲載されておらず真偽を確認することができなかった。ホームページにはすぐに掲載してもらいたい。また、十王地区にも勧告が出たが、どの辺りが対象となるのかわからなかった。詳細な内容についても掲載していただきたい。

A. ご指摘いただいた件については、今回の災害対応の大きな課題の一つとして認識している。災害時に正確な情報を、様々な方法を使って伝達することは大切なことである。ホームページ、携帯メール、広報車の巡回、地域の組織や消防団をとおしての伝達などの方法があるが、再度見直しを行い、瞬時に正確な情報を伝えられるよう体制を整えたい。また、貝生川流域に避難指示を出したが、対象区域の指定については、混乱したというのが事実である。区域の指定、また、その区域の人員の確認方法についても、再度検討したい。

Q. 避難勧告が出されたが、対象世帯が避難所に避難している際に、他の地区の人が避難地区に入って行った事例があった。避難対象地区を公開することは大事である。しかし、福島でもあったようだが、避難地区に警戒する人がいないと泥棒が入る危険性があるのではないか。

A. ご指摘の通り、避難対象地区の公開については、難しい部分がある。情報公開しなければ、地区の皆さんからの様々な支援が得られない。しかし、全国の避難区域において、常識では考えられないことが起こっていることも事実である。今後、検証を行っていくこととしているが、防犯という視点も含めたうえで対応策を検討していきたい。

Q. 自主防災組織として自宅待機していたが、招集がかからなかった。震度 4 以上でない町担当者が来ないということであるが、震度 4 以上でなかったため、自主防災組織にも招集がかからなかったのか。町ではどのような基準で招集をかけるのか、今後どのように対応していくのか教えていただきたい。

A. 今回の災害を教訓として、今後は、どの程度の降水量があれば避難が必要となるか、どの時点で自主防災組織のみなさんに協力要請を行うかについて、検証しながら考えていきたい。

Q. 水上天神線の町道が大きな被害を受けた。水上天神線の今後の整備計画をお示しいただきたい。

A. 今までも、舗装整備を計画的に行ってきた箇所である。現在は仮復旧で対応しているが、今後は、災害復旧として対策を講じていきたい。

Q. 草木沢の改修を早急をお願いしたい。八卦からも上野からも水が行くため、下流はかなりの水量となる。対応をお願いしたい。

A. 草木沢の支流であり、水路整備として継続的に対応している箇所である。旧国道 348 号から西村畜産までのおよそ 250m の区間は、流れが屈曲、蛇行しており、一番の難所と認識している。その区間には人家もある。今年度、一部区間ではあるが、側溝整備を予定している。

Q. 川戸沼は雨が降ると危ないのではと心配している。藤倉沼などの他の沼と一緒に管理出来るようなため池をつくっていただきたい。また、何かあった際に危険をどのように察知したら良いのか。

A. 川戸沼、金剛沼については、事業採択に向けて測量を実施し、今後の整備について管理者、県と協議しているところである。現状としては、現在の位置にと考えているが、そのまま良いのか、2 つを併せて 1 つにしたらよいのかについては、まだ検討する余地はある。藤倉沼については、三ツ滝林道が不通であるが、災害査定を受けた後、復旧出来る箇所から対応していく。

A. 大雨洪水警報に限らず、警報が出た際は自ら避難できるような準備をお願いしたい。町の職員が現場に行くまでには時間がかかるため、自分の命は自分で守るということを前提にお考えいただきたい。また、実際に避難することとなった場合、コミュニティセンターは有効に機能するものと思うので、災害対応という視点も含めてコミュニティセンターを考えていただきたい。

Q. 東中学校の昇降口の改修により、社教玄関が生徒たちの臨時の昇降口になるとのことだが、社教玄関には屋根がなく、生徒たちは雨を防ぐことができない。新学期に向けて、仮囲いを設置するなどの対応ができないか。

A. 工事期間中は不便な部分も出てくるため、ご迷惑をおかけしている。現在、社教玄関を使っている状況であるが、冬期間になれば、さらに生徒たちが大変になるものと思う。どのような対策ができるか早急に検討したい。貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

Q. 以前配布されたハザードマップ(※)については、今回の災害において役に立つものだったのか、今後、見直しが必要となるのか。また、十王地区においても防災への備えをしているが、町からの指導、援助もお願いしたい。

(※) ハザードマップ・・・平成20年度に町で作成した「洪水避難地図」及び「土砂災害避難地図」。

A. ハザードマップを配布しているが、今回の災害においては、そのマップに基づいて対応できなかったというのが実態である。その反省も含め、今後、地域にあった地区の防災計画や防災マップを、地域の方々と一緒につくっていく予定である。

Q. 災害が大きくなったのは、森林の管理不足が大きな原因の一つとお見受けした。環境基本計画に関わったが、なかなか進んでいないことも心配である。町では、木材の利用促進も進めているとのことなので、環境整備についても力を入れていただきたい。

A. 間伐材の放置などが災害につながったことは事実であるが、山腹崩壊については、なかなか予測できない。雨が降った際は、どこでも災害が起こりうるものと認識していただきたい。山林管理は、経済的な問題や管理者の高齢化などがあり、就業者がほとんどいない状況。エネルギーに変えていく取組みもしているが、個人の財産ということもあり、町が事業を実施するわけにもいかないのが現実。地域のみなさんに取り組んでいただき、町も協力しながら解決していきたい。